

2024年12月20日
旭洋造船株式会社

「深冷型アンモニア内航輸送船」として国内最大級の12,000 m³船型で 基本設計承認(AiP)を取得

旭洋造船株式会社(代表取締役社長:越智 勝彦、本社:山口県下関市、以下、当社)と上野トランステック株式会社(代表取締役社長:上野 元、本社:神奈川県横浜市中区)、泉鋼業株式会社(代表取締役社長:富家 孝明、本社:香川県高松市)は、国内タンクメーカーで建造可能な最大級のタンクサイズである積数量:6,000 m³型タンク2基(総量:12,000 m³)を搭載前提(セミレフタンク)とする、深冷型アンモニア内航輸送船の設計で、一般財団法人日本海事協会(以下、ClassNK)から基本設計承認(AiP: Approval in Principle)[※]を、このたび取得しました。新船型は、アンモニアの受入を想定する国内寄港地における入港制限への適合性を高めた船型に加え、深冷アンモニア輸送に対応することで、既存の加圧式輸送と比較し、より多くのアンモニア運搬を実現します。

※設計初期の段階の製品に対して、規則類の規定に基づく図面の審査を行い、規則類の観点での技術的な実現可能性を確認するスキーム。

政府が2050年までのカーボンニュートラルを目指す中、経済産業省は脱炭素に寄与するアンモニアの国内年間導入量として2030年に300万トン、2050年に3,000万トンを目指しています。既存のアンモニア国内輸送は年間30万トン規模で肥料や工業用として流通していますが、全て圧力式で200~1,000トンの小型内航船とローリーにより輸送しているのが現状です。

こうした中、当社は今般大容量のアンモニアを輸送する大型内航輸送船として基本設計承認を得たことで、これまでの外航加圧式/セミレフ式LPG船建造の経験も生かし、次世代エネルギーであるアンモニアの輸送やバンカリング(燃料として船に供給)に資する新造船建造することによって、今後の国内エネルギー転換に貢献してまいります。

■AiP取得日

2024年11月5日

■主寸法

全長:135m、船幅:22.2m、喫水:6.5m、積載量:12,000 m³、貨物タンク:IGC 独立型タンクタイプ C 6,000 m³×2基

以上

《本件に関するお問い合わせ》

旭洋造船株式会社 新造船営業部 石原、田中

TEL:083-246-1291 / E-mail:sales@kyokuyoshiyard.com